

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム 第2回本会合 議事要旨

1. 日時

令和4年12月22日(木) 10:00~12:00

2. 開催方法

オンライン (Microsoft Teams)

3. 参加企業・団体

パナソニックエナジー(株)、パナソニック オペレーショナルエクセレンス (株)、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)、(株)GSユアサ、大阪ソーダ(株)、(一社)電池工業会 (BAJ)、(一社)電池サプライチェーン協議会 (BASC)、技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター (LIBTEC)、関西経済連合会、近畿大学、大阪公立大学、三重大学、大阪公立大学工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、国立高等専門学校機構
福井県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、姫路市
産業技術総合研究所 (AIST)、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、製品評価技術基盤機構 (NITE)、近畿職業能力開発大学校、関西職業能力開発促進センター、高齢・障害・求職者雇用支援機構
文部科学省、経済産業省、近畿経済産業局

(事務局：近畿経済産業局、BAJ、BASC)

4. 議事要旨

資料1・2について、事務局より説明

- 蓄電池人材育成・確保のプログラムの基本的な方向性について、対象となる人材の意思決定プロセスを3段階に区分し、教育機関別の注力する段階について検討してきた。今後は「誰がどのようにいつ実施するのか」について議論を進めたい。

意見交換における参加者からの発言要旨は以下のとおり。

教育プログラムの方向性について

- 教員、学生共に、実際に手を動かし体験することが蓄電池に興味を持つきっかけとなる。産業技術総合研究所・LIBTEC 施設の活用をはじめ、産学官の連携により体験の場を提供したい。
- 実習体験は有効な手段であるが、一度に参加できる人数に限られるという課題もある。より多くの受入を可能とする実習方法の検討とともに、動画コンテンツの活用等、他地域にも展開可能かつサステナブルな運営体制による教育プログラムとなるよう調整したい。
- 学校に導入できるプログラムはある程度議論できているが、これから、学校現場に落とし込むために、誰がいつどのように行うか、という議論が必要。
- 現在の教育カリキュラムの中でおおよそ必要なスキルへの対応ができていることが分かったが、教員や学生に蓄電池の魅力があまり認知されていないのが現状ではないか。蓄電池の社会的意義を認識していただくための取組が必要。
- Z世代の学生には、SDGsに貢献できる会社を就職先として選んでいる傾向も見られる。SDGsや脱炭素の文脈の中で、蓄電池産業の役割や社会に与える影響力について、それぞれの立場から積極的に発信することが大切。

リスクリングについて

- 各社とも若手、中間層の人材が不足している。社会人のリスクリングを通じた人材の拡充についての取組を検討したい。
- 産業構造の変化に伴い、リスクリングが重要になってきている。リスクリングを通じて、成長分野である蓄電池産業において人材を確保・育成できるような取組を議論したい。
- 大学・大学院では、電池メーカーに魅力を感じる学生が増加している。学生が電池メーカーに就職した後も、蓄電池産業の将来性や、自身のキャリアプランを充実させる進路であると実感してもらえるような仕組みが大事。企業のみならず、大学もリスクリングの中心となり、学びを与えられるような場にしたい。

人材確保について

- 電池メーカー、部材メーカーでは、化学系人材のみならず、機械系や電気系等の人材も活躍している。幅広い理系人材にアプローチしていきたい。
- 理系人材に対する社会のニーズは高く、蓄電池産業以外の分野においても理系の人材不足が課題となっている。理系人材の拡充や、化学系に限らず、幅広い専攻分野の学生を蓄電池産業の対象人材とすることも必要。

今後の取組について

- 今後、産学官が連携して具体的な取組を進めていくため、蓄電池戦略で示された必要な人材数をより具体化する議論が必要。
- 各機関で所有している活用可能なコンテンツは、可能な限り共有し、コンソーシアム全体の知見を活用しながら、更に良いものに改良していきたい。

以上